

平成30年度西尾市地域公共交通活性化協議会収支決算

<収入の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
負担金	8,250,000	8,250,000	0	西尾市負担金
国庫補助金	250,000	250,000	0	地域公共交通確保維持改善事業費補助金(計画推進事業)
雑収入	1	43	42	預金利息
繰越金	699,572	699,572	0	前年度繰越金
合計	9,199,573	9,199,615	42	

<支出の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	摘要														
報償費	612,000	327,600	▲284,400	委員謝礼														
事業費	8,587,573	6,786,308	▲1,801,265	<table border="0"> <tr> <td>会議用お茶</td> <td>8,206</td> </tr> <tr> <td>くるりんバス時刻表</td> <td>124,200</td> </tr> <tr> <td>くるりんバス回数券</td> <td>70,632</td> </tr> <tr> <td>アンケート調査費用</td> <td>368,470</td> </tr> <tr> <td>公共交通時刻表</td> <td>720,000</td> </tr> <tr> <td>再編調査業務委託料</td> <td>5,194,800</td> </tr> <tr> <td>UDタクシー導入補助金</td> <td>300,000</td> </tr> </table>	会議用お茶	8,206	くるりんバス時刻表	124,200	くるりんバス回数券	70,632	アンケート調査費用	368,470	公共交通時刻表	720,000	再編調査業務委託料	5,194,800	UDタクシー導入補助金	300,000
会議用お茶	8,206																	
くるりんバス時刻表	124,200																	
くるりんバス回数券	70,632																	
アンケート調査費用	368,470																	
公共交通時刻表	720,000																	
再編調査業務委託料	5,194,800																	
UDタクシー導入補助金	300,000																	
合計	9,199,573	7,113,908	▲2,085,665															

収入総額	9,199,615円
支出総額	7,113,908円
次年度繰越額	2,085,707円

平成30年度西尾市地域公共交通活性化協議会の会計監査を実施したところ、適正に執行されていることを認めます。

令和元年 5月29日

監査委員 颯田 洪

監査委員 岡田 武宏

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

西尾市地域公共交通活性化協議会

平成25年4月17日設置

フィーダー系統 平成29年8月16日 確保維持計画策定等

●地域の特性と背景

平成23年4月の合併により広大となった市域に対して、各種公共交通機関が運行されているものの、平成22年時点での鉄道・バスによる人口カバー率は64%と少なく、公共交通空白地が依然として多く存在している。また、公共交通機関は佐久島渡船を除き全て赤字路線となっており、特に公共交通の軸となる名鉄西尾・蒲郡線は大幅な赤字路線となっているが、世帯あたりの自家用車保有台数が非常に多く、自家用車に依存したライフスタイルが広く浸透している。

●公共交通に関する計画

『西尾市地域公共交通計画（西尾市地域公共交通網形成計画）』（平成28年度～平成32年度）

【地域公共交通体系の将来像】

「日常生活に必要な公共交通が効果的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち」

【基本方針】

- ①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします
- ②市内に人の流れをつくり出します
- ③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります
- ④計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します

【課題の整理】

- ①公共交通の骨格を形成する鉄道の維持活性化
- ②バス交通の機能分担の明確化と路線維持
- ③地域の生活行動にあった公共交通ネットワークの整備
- ④公共交通相互及び地域間の関係の強化
- ⑤地域との協働による公共交通利用促進の取組み

●西尾市内の公共交通網

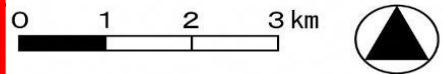
- 名鉄東部交通バス
 - 岡崎西尾線（三和・室場）・一色線・平坂中畑線・寺津線
- ふれんどバス
 - 吉良高・吉良吉田駅～一色・寺津・平坂～碧南駅・碧南高校
- 六万石くるりんバス
 - 市街地線（西尾駅～鶴城・米津～西尾駅）
 - 東廻り線（西尾駅～三和・室場～西尾駅）
 - 西廻り線（西尾駅～福地・平坂～西尾駅）
- いっちゃんバス
 - 一色町公民館～一色地区内
～一色町公民館



【吉良地区】いこまいかーにより、自宅から地区内の商業施設や医療機関等へ直接送迎

【幡豆地区】地区協議会において地区内の移動手段確保を協議中

市内タクシー事業者	
名鉄東部交通(株)	
一色タクシー(株)	
アイ・アイタクシー	



●各公共交通機関に対する取組み

鉄道	幹線	名鉄西尾・蒲郡線	<ul style="list-style-type: none"> ○大幅な赤字となっている西尾駅～蒲郡駅間の運行に対し、県市から補助を行い路線を維持。 ○県、西尾・蒲郡両市からなる対策協議会において路線存続に向けた協議を行い、平成32年度までの両市支援による存続を名鉄と合意。 ○団体・親子での利用者に対し運賃を補助。 ○西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団を中心とした各種団体等との連携により利用促進活動を実施。 ○市外からの人の流れを呼び込むため、地域資源の掘り起こしを進める誘客推進部会を設置。
		ふれんどバス [碧南駅～吉良高校] (名鉄バス) 【幹線系統補助】	<ul style="list-style-type: none"> ○西尾・碧南両市の住民等からなる運行協議会を開催し、運行に関する事項や利用促進策について協議。 ○事業者と西尾・碧南両市の協力により沿線施設を掲載したマップを配布。 ○碧南市イベントにおいて実車を用いた乗り方教室を実施。 ○定期利用者確保のため、沿線中学校へのチラシ配布や高校の入学説明会等で定期券出張販売等を実施。 ○主な利用者である高校生の利便性向上を目的に、平成30年4月から碧南高校への延伸を実施。 ○沿線高校全生徒へアンケート調査実施。通学時刻に合わせたダイヤ改正やICカード導入を予定。
バス	準幹線	路線バス [岡崎西尾線、一色線、 平坂中畑線、寺津線] (名鉄東部交通) 【一部幹線系統補助】	<ul style="list-style-type: none"> ○路線バスの運行に対し、赤字欠損額の補助を行い路線を維持。 ○通学者に対し安価なスクールバス券を発行し、通常運賃との差額を補助。 ○定期利用者確保のため、沿線高校の入学説明会等で定期券の出張販売等を実施。 ○経路検索事業者（NAVITIME）と連携し、路線情報の見える化を実施。
		六万石くるりんバス [市街地線、西廻り線、 東廻り線] いっちゃんバス (東伸運輸)	<ul style="list-style-type: none"> ○路線間の乗継券や沿線協賛店舗での買い物客への帰りの乗車券の発行、75歳以上の運転免許証自主返納者への優遇、パンフレットの配布等による利用の促進。 ○経路検索事業者（NAVITIME等）と連携し、路線情報の見える化を実施。 ○利用者数100万人達成を記念し、コミュニティバスの無料運行を実施。 ○外国人向け情報冊子や市役所ロビー設置の多言語情報モニターにてバスの乗り方案内を掲載し周知。 ○碧海5市とともに毎年度コミュニティバス担当者会議を実施し、情報共有・連携を図っている。
タクシー	支線	いこまいカー [デマンド型乗合タクシー] 【フィーダー系統補助】	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通空白地解消を目的に、予約により自宅から最寄りの駅またはバス停間を送迎するデマンド型乗合タクシー「いこまいカー」を運行。 ○パンフレットや名刺サイズの利用案内の配布、広報への掲載等により制度を周知。 ○六万石くるりんバスとの乗継割引券の発行や、複数人乗車に対するポイントカードの発行による利用促進。 ○75歳以上の運転免許証自主返納者への優遇制度を平成30年3月より実施。 ○地域ごとの高齢者や支援者等の少人数の会合に出向き、日常生活における具体的な利用場面などを例示しながらの周知を実施。

●西尾市地域公共交通計画（西尾市地域公共交通網形成計画）に基づく取組み 赤字:主要・新規取組み

基本方針	事業	対象期間の取組み
①	タクシーサービスの利便性向上・活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○ドア・ツー・ドアのタクシーの特性を活かして、交通手段の確保が困難な高齢者や障害者等の移動支援としてタクシーチケットを配布。 ○一色タクシーにおいて特産や観光のPRを目的に「抹茶色」等のタクシー車両を導入。 ○ユニバーサルデザインタクシー導入にかかる補助制度を新設。
	いこまいカーのサービス設定の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○吉良地区公共交通協議会からの提案に基づき、平成30年3月から商業施設や医療機関等へのいこまいカーの目的地拡大を実施。利用登録制に移行し予約を簡素化。民生委員や老人会等と連携し、高齢者へ利用登録を促す戸別訪問を展開。 ○75歳以上の運転免許証自主返納者を対象に運賃割引（300円→200円）を平成30年3月から実施。
②	鉄道の維持・活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○パークアンドライド促進のため、駅周辺での駐車場整備にかかる補助制度を新設。 ○市内各種団体等との連携による利用促進活動を多数実施。 ○誘客推進として名古屋周辺の大学生による沿線の観光資源発掘を実施。女性誌やSNSで沿線の魅力を発信。
	バスセンターの整備	○一色地区にていっちゃんバスの運行開始に伴い、市の再配置事業により公共施設を集約した一色町公民館に名鉄東部交通バス一色線、ふれんどバスの停留所を集約し乗継拠点とした。
	バス交通の再編	○民間路線も含めたバス交通再編のための各種アンケート調査を実施。アンケート結果をもとに、運賃体系の統一や重複区間の解消、市町間・交通モード間の関係を図り、わかりやすく使いやすいバス体系に再編していく。
③	事業管理とPDCAの実施	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年度計画記載事業の進捗管理及び目標達成状況の検証を実施。 ○地区が主体となって運行を開始したいっちゃんバスでは、地域自ら目標値設定や利用促進策、自己評価を実施。
	地区公共交通協議会の設立・運営	○一色地区・吉良地区での住民主体による地域内公共交通改善実施のほか、幡豆地区でも地区公共交通協議会が設立され、地域と行政の協働による改善案検討のためアンケートによるニーズ調査を実施。
	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○経路検索事業者（NAVITIME、ジョルダン、駅すぱあと）と連携し、路線情報の見える化を実施。 ○市内公共交通を網羅した公共交通マップ・総合時刻表の作成。【計画推進事業】
	まちづくり・観光振興と一体となった施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○各種団体との協働により、鉄道沿線ウォーキング等のイベントを多数開催。 ○公共交通を活用した観光キャンペーンの実施。 ○愛知こどもの国でのイベント開催時に、鉄道での来場者に対しグッズを配布。
	エコ通勤・通学の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○沿線中学校へ公共交通を利用した高校への通学案内チラシの配布。 ○県と連携し市内企業を回り、鉄道を利用したエコ通勤への協力依頼を実施。

●西尾市地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）の目標達成状況

基本方針	指標	計画策定時	目標（H32年度）	実績／中間時点目標値	
①	日常生活で移動に不便を感じている市民の割合	39.9%	35%	- / - (H32年度に調査)	
	西尾市が住みにくい理由における「交通の便が悪い」の割合を減少	76.2%	60%	79.3% / - (H30)	
②	公共交通機関の年間利用者数の維持・増加	名鉄西尾・蒲郡線 (西尾駅～蒲郡駅)	3,173千人 (H26)	3,637千人 (対策協議会目標値)	3,391千人 / 3,462千人 (H29)
		六万石くるりんバス	112千人 (H26)	198千人 (毎年10%ずつ増加)	117千人 / 149千人 (H29)
		いっちゃんバス	- (H29運行開始)	18千人 (1便平均5人以上)	2千人 / 18千人 (H29)
		いこまいかー <フィーダー系統補助>	1,044人 (H27)	1,680人 (毎年10%ずつ増加)	1,335人 / 1,398人 (H30)
		名鉄東部交通バス <一部幹線系統補助>	443千人 (H27)	443千人 (維持)	473千人 / 443千人 (H30)
		ふれんどバス <幹線系統補助>	270千人 (H27)	270千人 (維持)	304千人 / 270千人 (H30)
		佐久島渡船	190千人 (H26)	200千人 (5%の増加)	246千人 / 195千人 (H29)
③	地区公共交通協議会が主体となった利用促進活動	未実施	実施	一色地区、吉良地区において実施	
④	地区公共交通協議会との連携でPDCAを実施	未実施	実施	一色地区において実施	

●西尾市地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）の目標達成状況

○沿線一丸で取組んでいる名鉄西尾・蒲郡線については、順調に利用が伸びているが、依然として定期外・蒲郡線の利用が少なく、誘客推進の取組みを加速させていく必要がある。

○幹線路線であるふれんどバス・路線バスについては、定期利用を中心に堅調に推移しているため、地域・事業者と連携し、定期利用の確保及び日中の定期外利用促進策を実施していく。

○六万石くるりんバスについては、運行開始から10年連続で利用増となったものの増加率が鈍化している。地域と一体となり新たな利用促進策に取り組むとともに、地域の需要を洗い出し、路線バスとの重複解消・運賃体系の統一等の再編を実施していく。

●生活交通確保維持改善計画の目標達成状況

○目的地を商業施設や医療機関へ拡大した吉良地区において、1.5倍の利用増となり、全体でも前年比33%増を達成。

○利用登録制に移行し予約を簡素化。民生委員や老人会等と連携し、移動に困っている高齢者へ利用登録を促す戸別訪問を展開。いこまいかーから鉄道を乗り継いだおでかけ案内等も併せて行い、新規目的地だけでなく、鉄道駅で乗り継ぐフィーダー利用も増加。

○利用者や高齢者へのヒアリングでは、いこまいかーを知らない、利用方法がわからない、予約が難しい、駅・バス停以外に行きたい等の意見が多く、それぞれの意見への対応策引き続き実施する。

○いこまいかーエリア別利用人数累計			
エリア名		H28.10 ～H29.9	H29.10 ～H30.9
西尾地区	西尾	0	0
	花ノ木	0	0
	鶴城	0	1
	ハツ面	0	1
	西野町	0	1
	中畑	0	0
	平坂	15	17
	矢田	0	0
	寺津	0	0
	福地南部	2	3
	福地北部	20	26
	三和	86	57
	室場	2	2
米津	33	31	
一色地区	一色西部	0	0
	一色南部	0	0
	一色中部	0	0
	一色東部	2	6
	佐久島	31	18
吉良地区	吉田	2	17
	白浜	494	490
	荻原	129	280
	横須賀	44	79
	津平	86	252
幡豆地区	東幡豆	55	52
	幡豆	4	2
計		1,005	1,335

課題	対応方針
<p><フィーダー補助事業：いこまいかー></p> <ul style="list-style-type: none"> ①いこまいかーを知らない ②利用方法がわからない、予約が難しい ③駅やバス停以外に送迎してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き民生委員や包括支援センター等の高齢者と接する機関と連携した出前講座や警察と連携した運転免許証自主返納の周知により認知度を高める。 ②予約から利用までのデモンストレーションや実車を用いた乗り方講座等を検討し、利用のハードルを下げたい。 ③吉良地区において実施した商業施設や医療機関など日常のおでかけ先への目的地拡大をモデルに、バス交通の再編と併せて各地域に応じた運行の見直しを検討する。
<p>名鉄西尾・蒲郡線の利用促進活動</p>	<p>2市の市民団体を中心に、熱心な利用促進活動に取り組み、近年は毎年度利用増となっているが、依然として大幅な赤字路線であるため、持続可能な路線となるよう、蒲郡線・定期外利用者を中心に、地域外からの誘客推進に取り組む。</p>
<p>効果的な利用促進策の実施</p>	<p>いこまいかーは鉄道・バス補完する支線交通であるため、公共交通の根幹である接続先の鉄道やバス自体を維持確保することが重要となる。バス路線の再編により公共交通体系全体の見直しを図りながら、総合交通マップなどの情報提供や引き続きターゲットを絞った利用促進など民間路線も含めて一体となった利用促進策を実施していく。</p>
<p>近隣市との関係・交通モード間の関係</p>	<p>アンケートを実施した西尾地区、幡豆地区では、隣接市への移動需要も多く見られたため、鉄道や幹線バス路線など現状の隣接市へのアクセスを強化するとともに、各交通モード間の関係についても、バス交通再編の中で対応し、わかりやすく使いやすい交通ネットワークとしていく。</p>

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

西尾市地域公共交通活性化協議会

平成25年4月17日設置

フィーダー系統 平成29年8月16日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>地区協議会を設立して、市民・行政・事業者が協働することで、一色地区コミュニティバスを運行開始し、利用促進の取組みを行ったことは評価する。</p> <p>一方、いこまいかーについては、利用促進を図ったが目標値を達成できなかったことから、地域住民との協働によるさらなる利用促進策が必要。</p> <p>今後は隣接市との地域間幹線の見直しや市内コミバスやいこまいかーの乗り継ぎ利便性を含めた議論が展開されるよう期待する。</p> <p><平成30年2月評価></p>	<p>いこまいかーについては、地区協議会での検討に基づき、吉良地区において平成30年3月から目的地を拡大し、老人会や民生委員との協働により高齢者へのPR活動を実施。</p> <p>また、地域間幹線については、引き続き近隣市・運行事業者と連携し、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進やふれんどバスの碧南高校延伸を実施したほか、利便性の高い公共交通ネットワークの実現に向け、バス交通再編のための各種アンケート調査を実施。</p>	<p>引き続き近隣市・運行事業者と密に連携し、地域間幹線の確保維持改善に取り組んでいく。</p> <p>また、アンケート調査の結果に基づき、コミュニティバスに限らず民間路線バスも含めたバス交通の再編を実施し、重複区間の解消や運賃体系の統一等を進めていく。</p>

①地域住民が主体となった取組み

地区公共交通協議会の設立により、地域にとって本当に必要な公共交通とは何かを地域の住民自らが考える機会が設けられ、様々な取組みが実施されている。

一色地区	いっちゃんバス運行ルート改善のためのアンケート調査、沿線施設一覧表作成
吉良地区	民生委員、老人会、包括支援センター等地域一丸となったいこまいかの周知
幡豆地区	幡豆地区内の移動手段を検討するため、協議会を設立し、アンケートによるニーズ調査を実施



②沿線一丸となった「にしがま線げんき戦略」の取組み【利用促進+地域外誘客推進】

本市公共交通の軸となる名鉄西尾・蒲郡線については、大幅な赤字路線となっているが、「乗って残そう」を合言葉に2市の市民主体による利用促進活動が数多く展開されている。

また、定期外利用、蒲郡線の利用が少ないことから、これまでの「利用促進」にプラスし、観光・まちづくり分野も巻き込んだ地域外からの「誘客推進」の取り組みを実施。

- 名古屋周辺の大学生による沿線観光資源の掘り起こし、女性誌・SNSでの情報発信
- 駅周辺のエリアマップの作成や蒲郡線沿線でのレンタサイクルの整備



女性誌での蒲郡線の魅力発信



西尾高校による沿線ウォーキング



にしがま線啓発グッズの作成



利用促進大会の開催

③関係者との連携によるターゲットを絞った利用促進活動

ターゲット	連携	内容
若者	沿線中学校 経路検索事業者 (NAVITAIME等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学三年生へ沿線高校へのバス通学 P R チラシを配布 ・ 市内全路線の見える化を推進しスマホ等で検索可能とした
外国人	外国人担当部署	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人向け情報冊子や市役所ロビーに設置の多言語情報モニターにてバスの乗り方案内を掲載し周知
高齢者	民生委員、老人会、地域包括支援センター、西尾警察署	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の会合に出向き、一対少人数で日常のおでかけ場면을例示した P R やマイ時刻表の作成 【計20回300人以上】 ・ 運転免許証返納支援事業の P R や乗り方教室の実施



多言語情報モニター



警察との協働により、免許返納を促す乗り方教室を実施

3ヶ月前に公開
大万石くるりんバスの紹介
 大万石くるりんバスは 西尾駅から 3つの コースを走っています。

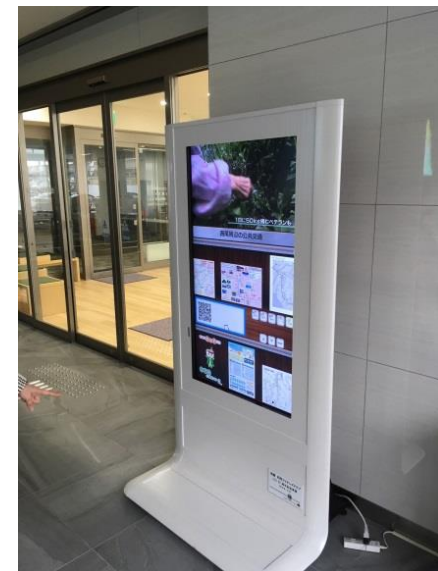
行くことが できる ところ

- ・ 市番毛線 (赤色の バス)
 西尾駅、市役所、湯原本町 (ライニールいづも)、文化会館、陸上競技場 (シャヤ)、市営病院、春葉センター (パロウニク高島)、西尾線、西尾警察署
- ・ 東廻り線 (緑色の バス)
 西尾駅、市役所、福祉センター、西尾口駅、市営病院、鐘の嶽にしお開い山、ポウイトラエイフ
- ・ 西廻り線 (黄色の バス)
 西尾駅、市役所西、南城下 (シャヤ)、勤労会館北、高山 (ライニールオスル)、福地駅、鐘の嶽

乗り方

- 1 バスが 出発する 時刻までに バス停に 行って バスが 来るのを 待ちます。バス停は バスが 停まる 場所のことです。バスが 来る 向きや 乗降は 向き表を 見て ください。
- 2 バスに 乗るときに お金を 入れます。お金は 1回 100円です。(小学生以下・障害がある人は 0円)
- 3 降りる バス停が 近づいたら 赤ボタンを 押します。
- 4 バスが 止まったら 降りてください。

<問い合わせ先>
 市役所1階 地域支援協働課 地域支援担当 窓口番号③ 電話 0563-65-2107



観光客向けのデジタル情報スタンドへ交通情報を掲載

外国人向け情報冊子